

7. 国民代表集団における社会経済的要因と低体重、過体重及び肥満との関連： NIPPON DATA2010

研究協力者 中村 富予（龍谷大学農学部食品栄養学科 教授）
研究分担者 中村 保幸（龍谷大学農学部食品栄養学科 教授）
研究分担者 斎藤 重幸（札幌医科大学保健医療学部看護学科基礎臨床医学講座 教授）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）
研究分担者 由田 克士（大阪市立大学院生活科学研究科食・健康科学講座 教授）
研究分担者 喜多 義邦（敦賀市立看護大学看護学部看護学科 准教授）
研究分担者 村上 義孝（東邦大学医学部社会医学講座医療統計学 教授）
研究協力者 横道 洋司（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 准教授）
研究分担者 西 信雄（医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長）
研究分担者 奥田奈賀子（人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授）
研究分担者 大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授）
研究分担者 上島 弘嗣（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授）
研究分担者 岡山 明（生活習慣病予防研究センター 代表）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）

NIPPON DATA2010 研究グループ

【目的】

国民健康・栄養調査のデータを用いて、日本人一般集団における社会経済的要因と低栄養、過体重及び肥満との関連を性別、年齢別（20-64 歳、65 歳以上）に検討した。

【対象と方法】

2010 年国民健康・栄養調査において NIPPON DATA2010 ベースライン調査に参加した 20 歳以上の成人のうち、2,491 人（男性 1,081 名、女性 1,410 名）を対象とし、WHO の肥満の定義（BMI: <18.5、18.5-25、25-30、>30）によって 4 群に分けた。18.5≤BMI<25（正常）を参照とし、<18.5（低栄養）、25-30（過体重）、>30（肥満）をアウトカムとして、多項ロジスティック回帰分析を用いて、社会的経済要因（世帯年収、学歴など）のオッズ比を算出した。

【結果】

成人男性では、低い教育歴（高校卒業まで）のオッズ比は、高い教育歴（大学卒業以上）に比べて、社会経済的要因で補正後、肥満と負の関連を示した。逆に、成人女性では、低い教育歴は過体重・肥満と正の関連を示した。さらに、成人女性では、世帯収入 600 万円以上に比べて、200-600 万円未満、200 万円未満のオッズ比は過体重、肥満と正の関連を示した。

【考察】

成人女性においては低い教育歴と、低所得は、過体重・肥満に関連していた。しかし、成人男性では低い教育歴は、肥満と負の関連を示していた。社会的経済的要因における性別や年齢差は、肥満・過体重の有病率に影響を与えるため、社会的格差是正の施策が望まれる。

J Epidemiol. 2018;28(Suppl 2):S10-S16